



さあ、いよいよ希望に満ちた新年の始まりだ

新しい年を迎え、今生徒のみなさんも希望や期待に満ちていると思います。今年、この東中学校は70年目という大きな節目を迎えます。皆さんにとっても、この1年は人生の礎（いしずえ）を築く大切な1年だと思います。新年を迎えた今だからこそ、気持ちを新たにして目標を定めることはとても大切です。気持ちを切り替えて、成長し、自分を大きく飛躍する1年にしたいものです。二学期までのがんばりに引き続き、この東中学校を、元気良く爽やかなあいさつが飛び交い、みんなが励まし高め合える学校にしていきたいと思います。

二学期のふり返り、そして、これからへ ～終業式で語った代表の決意～

終業式で二学期のふり返りとこれからへの決意を、三学期始業式では、新年を迎えての決意を各学年の代表の生徒が発表しました。どの生徒も学年それぞれがもつ課題をふまえ、力強く思いを語ってくれました。その中から、二学期終業式での代表のふり返りと決意を紹介します。

二学期を終えて 梶川 梨理香(1-4)

二学期はいろいろな行事がありました。どれも初めてのことばかりで、とても楽しみにしていました。その行事の中で、特に思い入れが強かったのは体育大会です。普段あまり関わらない先輩たちと力を合わせ、優勝を目指していくのとても新鮮でした。

先輩たちがたくさんいる中で練習するのは、とても緊張しました。しかし、応援の指導などで優しく教えてもらっているうちに、この先輩たちの最後の体育大会を絶対にW優勝したいという思いが強くなっていきました。

そのような気持ちになったのは、クラスのみんなも同じだったようで、応援リーダーを中心に、自主練習が始まりました。全ての放課や給食の後、STの後など、授業以外の時間は全て応援の練習でした。他のクラスの子たちが自由に過ごしている中で、4組だけが練習していることも多くありました。

しかし、4組の中で不平や不満を言う子は誰一人いませんでした。全員が真剣に応援リーダーを見つめ、リーダー以外の子でも、できない子にいていねいに教えてあげている姿が見られました。4組はまとまりのあるクラスだとは思っていましたが、先輩への思い一つでここまで変わるとは想像していませんでした。一人一人の思いが、クラス全体を大きく動かしていたのです。

私は応援の並びが一番後ろでした。そのため、日に日に良くなっていくのがわかりました。

腰の高さが低くなったり、声を出す前の息を吸うタイミングがそろっていたりすることが、とてもうれしかったです。獅武琥(かぐら)の成長が、私たち4組の喜びでした。しかし、結果は競技の部が準優勝、応援は入賞できませんでした。私以外の子たちも、涙を流していました。

私たちは、体育大会と同様に合唱コンクールと駅伝大会にも全力で取り組みました。行事を経験するたびに、普段の生活での雰囲気はよくなっていきました。困っている子がいたら、いつの間にか周りに人が集まって「大丈夫？」と声をかけてあげている、集合するときには自分のことは後にして全体のために動いている、どんなことにもクラス全体で盛り上げられるなど、先生方に褒めていただくことも増えました。

4組のみんなは口をそろえて言います。「4組が一番居心地がいい。」と。一つの目標に向けて全員で努力してきて、それがたとえ悔しい結果になっても、私たちは、結果よりも大切なものを手に入れることができたと思います。みんなで同じ気持ちを共有することが、4組の絆を深めていくことにつながったのです。悔しいことも、全員でなら受け止めることができ、前向きになれました。

そんな1年4組解散をゴールではなく、スタートだと考えて、クラス一人一人が2年生になってもいろいろなところで活躍できるようになりたいです。あと3ヶ月、1年4組をもっともっといいクラスにしていきたいと思います。

二学期がんばったこと

私が二学期がんばったことは二つあります。

一つ目は部活動です。私は部長なので、部員に指示を出さないとはいけません。しかし、なかなか自分の考えがまとまらず、あいまいな指示を出してしまうことがあり、みんなにたくさんの迷惑をかけてしまいました。しかし、そのたびに、副部長やいろいろな人が私を助けてくれました。そのおかげで、自分がやらなければならないことがわかってきて、ここまで部長としてがんばってこれることができました。これからも自分のできることを全力で取り組み、部員に信頼される部長になりたいです。

二つ目は、合唱コンクールです。私は合唱コンクール実行委員になりました。だからこそ、絶対に金賞をとりたいと思いました。しかし、練習の始めの頃は、クラスの一人一人がバラバラで

杉山 藍子(2-2)

気持ちも合唱もまとまっていませんでした。そしてプレ合唱コンクール、最後の体育館練習も失敗してしまいました。でもその後、各パートやクラス全体で改善点を話し合い、その反省を次へとつなげていくことができました。各パートのメインとサブを理解し、声の大きさを考えるなど、いい合唱をつくるためにたくさんの工夫をしました。金賞をとることはできませんでしたが、2組で頑張れたことは本当に良かったです。そして、大変なことも多かったですが、自分自身ががんばったことをみんなに認めてもらえて、クラスのMVPに選ばれてうれしかったです。

二学期は、人をまとめる立場に立つことが多く、あらためてその難しさを感じましたが、その分、大きく成長することができました。この成長を三学期に生かしていきたいです。

努力は裏切らない

山田智恵美(3-3)

私は、合唱コンクールを通して、妥協せずに努力することの大切さを学びました。

初めての朝の合唱練習の前日、「明日から合唱の練習をします。」そう宣言した実行委員に、「はい。」という前向きな声と、「えーっ。」という不満の声が上がりました。「体育大会で思うように結果を出せなかった3組は、他のクラスより努力を積み重ねなければいけない。みんなわかっているはずだから、やるだけやってみよう。」そう実行委員と私たち学級役員で決めました。

それでも、朝練習に参加してくれた人はクラスの半分くらいでした。心が不安で一杯になってきたけれど、前向きに参加を呼びかけ続けました。みんなが揃うまでに1週間かかりました。

全員が揃って歌う歌は、日に日に良くなっていきました。毎日成長していく3組の合唱に、確かな手応えがありました。それでも、同じ団の1年生や2年生と合同練習をするたびに、自信がぼろぼろと欠けていく感じがしました。毎日必死に合唱曲を作り上げる私たちに、奥谷先生が本番当日にビデオを作って見せてくれました。ず

っと見ていてくれた先生からの励ましに、何度も涙がこぼれそうになりました。

迎えた本番では、最高の合唱を披露することができました。結果は金賞。嬉しそうに舞台上上がる実行委員の笑顔。教室で泣いた先生の顔。最後にみんなで歌ったときの充実した笑顔。私は、合唱コンクールで経験したすべてのことに感謝しています。妥協せずに努力を続ければ、願いは叶うという経験が得られたからです。

私は、残りの50日あまりの中学校生活を、この3組で過ごせることがとても嬉しいです。この3組で、入試に向かっていけることが頼もしいです。気配りのできるクラスだからこそ、みんなで入試に立ち向かえと思っています。

私には、どうしても進学したい学校があります。まだ、十分にそのレベルに達しているかわかりません。でも、夢で終わらせたくないから、本気で努力を積み重ねていきたい。どんな些細なことにも妥協せず、努力を積み重ねていきたい。夢をかなえた合唱コンクールの経験を生かして、私は努力をし続けたいと思います。

3組のみんな、一緒に受験まで頑張りましょう。